

## 事例15

益子町中央公民館・益子町立各小・中学校

# 学校支援ボランティアコーディネーター懇談会

## 連携の経緯



平成11年度から生涯学習課の事業として、年1、2回「生涯学習担当者連絡会議（町内の各小・中学校生涯学習担当教員と公民館職員で構成）」が開催され、学校と地域の連携などについて情報交換を実施している。平成18年度の連絡会議では、学校支援ボランティアの活性化や学校支援ボランティアコーディネーターの必要性や役割などが検討課題となつた。

そこで、公民館は「平成18年度芳賀地区ボランティアコーディネーター研修会（芳賀郡市社会教育運営協議会・芳賀教育事務所共催）」の開催に合わせ、町民にチラシを配布し研修会への参加者を募った。

その結果、町内の4名の男性が受講した。そのことを契機に、教育委員会では、平成19年度新たに「学校支援ボランティアコーディネーター懇談会」を設置し、この4名に参加を依頼した。

## 連携事業の概要

これは、「学校支援ボランティアコーディネーター懇談会」という会議・組織を媒介とした学校と地域・公民館との情報交換というかたちの連携である。公民館は懇談会を招集し、会議を開催する事務局を担当する。町内各学校は生涯学習担当教員を会議に出席させ、地域からは4名の学校支援ボランティアコーディネーターが参加している。

懇談会では、関係者の意思疎通を円滑にするためにお互いの情報を十分に交換し、今後の活動の展望を探った。また、この懇談会を通じて、学校は開かれた学校をつくり、地域は学校の教育活動を支援することとし、学校と地域が一体となった教育活動の推進方策を検討した。さらに、芳賀教育事務所が組織的に支援することが確認された。

\*学校支援ボランティアコーディネーターの具体的な活動は、読書普及活動の支援（本や図書室の整備・整理等）や教科指導の支援（家庭科のミシン・音楽科の尺八等）などを行う学校支援ボランティアと町内の学校とのコーディネートを行うことである。

## 連携の形態

この懇談会は、町内の各小・中学校生涯学習担当教員と公民館職員、学校支援ボランティアコーディネーターで構成されている。

会議名	事務局	当日(H19.7.5)の参加者
学校支援ボランティアコーディネーター懇談会	公民館	・学校支援ボランティアコーディネーター(4) ・生涯学習担当教員(4) ・公民館職員(4)

### <平成19年度 益子町の生涯学習担当教員>

小学校4校	10(教頭2 教諭(教務主任)4 教諭3 講師1) ・内 社会教育主事有資格教員4
中学校3校	6(教頭2 教諭(教務主任)1 教諭3) ・内 社会教育主事有資格教員1

\*町内の各小・中学校の校務分掌には「生涯学習係」が位置づけられており、生涯学習担当者として学校の窓口になっている。

# 益子町中央公民館

## 【施設データ】

所在地	益子町益子3667番地3
電話	0285-72-3101
設置年	昭和63年
対象地域人口	約25,000人
延床面積	4,397.36m <sup>2</sup>
設置状況	複合：益子町民会館
U R L	

## 【施設の管理運営等】

職員の状況	・館長（兼任1）：生涯学習課長 ：町民会館長
	・主事（専任12）
	・社会教育指導員（専任1） ・その他（専任2）
協議会等	社会教育委員兼公民館運営審議会
予算額	維持管理費： 28,614,000円 事業費： 2,221,000円

## 連携の留意点

- 学校と地域の連携を推進するには「生涯学習担当者連絡会議」のような関係者が集う場を設定することである。
- 公民館は、学校支援ボランティアコーディネーターが、学校や学校支援ボランティアへの対応などで困った時に必要な人材を派遣したり、情報の提供をしたりする。
- 実効性のある会議とするために、会議は直接担当するメンバーで構成する。
- 公民館は、学校支援ボランティアコーディネーターの個別のニーズ（コーディネート記録用紙の作成等）に細かく対応する。



## 成 果

- 学校支援ボランティアコーディネーターは地元の小・中学校を中心に自主的に活動し、独自に学校との関係を築いており、学校と地域を結び、まちづくりを支えている。
- 学校支援ボランティアなどによる学校と地域が一体となった教育活動が、子どもの学習意欲を引き出し、学校の教育課題達成につながっている。
- 公民館、学校、学校支援ボランティアコーディネーターが直接話し合う機会を設けたことにより、ボランティアコーディネーターの必要性が周知された。また、懇談会では下記のような意見が出され、ボランティアコーディネーターの活動意欲を高めることができた。



「地域の方の懐が深い。学校支援ボランティアコーディネーターを地域の方がやってくれるのは心強い。」  
 「学校で困っていることがたくさんあるということは、学校支援ボランティアコーディネーターの活躍の場があるということ。」  
 「ボランティアが学校に入ると、子どもたちは生きた話を聞くことができ、表情も真剣になる。とても大切な事であり素晴らしいこと。」  
 「地域の人がコーディネートをやるとなると、学校のことを今まで以上によく知る必要があると思う。」  
 「先生とコーディネーターが顔見知りになって本音の話ができるかがポイント。それには何回も顔を合わせる必要があると思う。」  
 「ボランティアが学校に押し寄せると学校は收拾がつかない。学校支援ボランティアコーディネーターが必要であると思った。」など

## 課 題

- 懇談会では、教員と学校支援ボランティアコーディネーターの信頼関係がさらに深まり本音で話し合うことができるよう、ワークショップの手法を取り入れるなど工夫した場づくりを考えていきたい。
- 懇談会では、学校支援ボランティアコーディネーターが実際にコーディネートした事例を発表したり、成果や課題を出し合ったりして、より充実した活動となるように発展させていきたい。
- 今後は、各学校支援ボランティアコーディネーター間の情報の共有化などがより円滑に進むように、総括コーディネーター（仮称）の必要性も考えていきたい。